

# 所 報

No. 26

佐賀県教育センター

佐賀県佐賀郡大和町川上

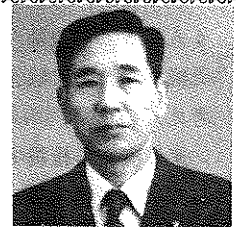
TEL 09526-2-5211

## もくじ

- 教育研究..... 所長 1
- 充実した、役だつ研修に — 55年度講座について — ..... 2~3
- 指導の工夫・着眼点 ..... 3~7
  - ・教育工学の日常化
  - ・道徳的実践力の育成をめざして(小・道)
  - ・学級会活動 — 「係活動」の考え方とすすめ方—
- 昭和55年度研究紀要の概要紹介 ..... 8~9
- 昭和55年度長期研修体験の感想 ..... 9~10
- 公募・教育実践・研究記録の紹介 ..... 11
- 教育センターの図書を紹介 ..... 12

## 教育研究について思う

佐賀県教育センター所長 杠 茂



「どの子どもどもは星 みんな それぞれの光をもってまばたいている。

光を見てやろう まばたきに應えてやろう。

光を見てもらえないと 子どもの星は光を消す まばたきをやめる。

光を消しかけている星はいないか まばたきをやめようとしている星はいないか。

まばたきに應えてやろう 光を見てやろう。

そして天いっぱい子どもの星をかがやかせよう」 (東井義雄)

私はこの詩に接し、教師の役割の真髄に触れた思いがしました。

教育センターは教育実践・研究記録の募集を、昨年度は、「子どもの学ぶ喜びは、教師の教える工夫から」そして、今年度は、「子どもの学ぶ喜びは、教師のやる気と工夫から」を標語にして行いました。このことは、教師が自らの役割をみつめ、お互いに認めあい、励ましあって子どものために教育研究を進め、上記の詩にあるような東井先生の心に近づきたいとの願いもあったからです。

ところで、今回の学習指導要領改訂では、国はできるだけ大綱的な基準を示すにとどめています。「ゆとりと充実」の問題にしても、学校の創意工夫にゆだねることにしています。このことは国が学校を信頼し、教師に期待を寄せてのことであり、それだけに教育研究が一層強く望まれるところです。

教育研究で大切なことは、実践的な問題を解決するという教師の向上心で、子供の教育を向上させることだと思います。ゆとりと充実の問題を例に考えますと、「子供の学校生活を一層充実させるための学習内容と活動の方法を、創意の時間でどう最適化するか」を、学校教育全体の調和と充実効果の側面から学校をあげて検討し改善することだと思います。そして、子供の意欲や活動意識を含めた研究条件を定め、仮説をたて、学校ぐるみの研究体制で進めることが望ましいと思います。

このような進め方をすれば、教育実践即仮説の検証になり、計画、実施、評価、改善のサイクルによって意図的計画的に、そして継続的発展的に教育が行われます。つまりその結果が学校を活力のある豊かな人間形成の場となし、個性的な特色ある伝統もつくるものと思います。

“子どもの向上を一途に考え、教育活動の創造と研究に学校ぐるみで挑んだときは、教師と地域の父母との人間関係まで深まるものです。”これは、私の一番想い出多い学校でのことです。

いずれにしても、教師の研究や修養は義務とか強制とかいう感覚で論ずるものでなく、人間が人間を形成するという職を選んだ者の避けられない宿命的な道であると考えます。それは、子供に尽くす心であり、碧巖録にある「向上一路」のことばにも通ずる道ではないかと思ひます。

昭和56年度研修講座

充実した役立つ研修に

1. 4人に3人の先生に「一度はセンターへ」

56年度は、教育センター発足3年目です。研修講座にとっては基礎づくりのもっとも大事な時期を迎えることになります。

センターでは、県下の教職員に最低4年に一度程度はセンターの研修の受講を、との目標に立って諸般の計画、準備を進めてきました。

来年度は、これを一層進め、来年度までに4人に3人の教師が一度はセンターの講座を受講されたとの状況をせび実現したいものと考えています。

来年度、各校種で、次の数の受講者を計画しています。

Table with 2 columns: School Type, Number of Participants. Rows include 幼稚園 (109), 小学校 (996), 中学校 (608), 高校 (503), 特殊教育諸学校 (84), 計 (2,300).

2. 多様な研修への期待に応える

56年度は、次のような講座を新しく開設します。

- 1. 小学校図工 5. 県立学校事務
2. 小学校音楽 6. 情報処理
3. 中社(歴史) 7. 情報技術
4. 県立学校教頭

教育センターは、全教職員に開かれたセンターです。例えば、図工科に関心の深い教師にも開かれなければなりません。音楽科で指導上の悩みや課題をもっておられる教師にもおいていただきたい。また、事務職員の方にも役立つセンターでありたいなど、多くの方々への門戸をちょっとでも広く押し開いていきたいと考えています。

3. 学校の課題に応え、参加しやすい研修

56年度の研修講座は、断続研修を除いて、5月下旬から11月下旬に実施する計画ですが学校が多忙な7月や9月は、できるだけ少くするとともに夏季休業期間に全講座の1/3程度を開設して受講しやすい期日を設定したいと考えています。

また、各講座の期間も休業中を除いて3日連続しての研修は行わず、例えば、1日と2日のように中途に一定の期間を置き、先生方が連続して学校を離れることにならないように工夫したいと考えています。

なお、この期間の設定は、更に積極的な意味あいがあると考えています。中途の期間に一定の課題や実践活動を遂行してもらうと研修を一層充実したものにすることができると考えるのです。

センターの研修が、研修—実践—研修というサイクルの中に位置づけられて、学校での具体的な実践性を高めていくことは、センターの研修の充実のうえからまことにうれしいことです。

しかも、この実践が各学校の校内研修等との関連の中で協同の実践を経たものとなれば、これは教員研修として得がたい貴重なものになると考えます。

4. 変化に富む楽しい研修

これまでも、教育センターの講座では講義一辺倒の研修から極力多様化して、研究協議あり、演習あり、実際の授業ありと変化に富んだものとして、研修を方法の面からも魅力あるものになるよう心がけてきました。

56年度は、これをさらに進め、研修が変化に富み、ゆとりもあって楽しいものとなるよう工夫したいと考えています。

例えば、研究協議や演習なども、これまで、講義と同様、2時間単位が多かったのですが、これを3~4時間とゆっくりとするのも一つの工夫かと考えています。

こうして、これまで、幾分過密な日程だったとの声にも応えたいと考えています。

5. 人間関係を深め、実践の交流に役立つ研修

個室形式の演習室で行われる、ゆっくりした研修は、グループ内の人間関係をいやがうえにも親密なものにしてくれているようです。

「わかる授業」の指導の工夫・着眼点

—教育工学の日常化—

1. はじめに

右の図は、ある高等学校で授業直後、授業に関する意識調査(1)、(2)をしたときの結果である。(S52.10)この図によると、かなり多くの生徒が授業をむずかしい、わからない、面白くないと答えている。一方、OHPやアナライザーという教育機器やプリント、教室実験といった視聴覚に訴える提示、反応方式は授業の上では好感が持たれている。意識調査(3)は、やる気をおこす指導法について188名を対象に調査したものである。これらの調査から推測されるのは、かなり多くの生徒が授業に不満をもっていることである。

それでは、どうすれば授業に不満をもつこれらの生徒に興味や関心をもたせて学力向上を図り、かつ学習後の充実感を持たせようとするか、よい授業を行うことができるか教育工学の立場から考えを述べてみたい。

2. よい授業と教育工学

授業は学習者にとって「わかる」ものでなければならない。そのためには授業者自身が教えようとしている教材に精通していることや、学習者のレディネス、興味、関心、性格などについて、あらかじめ十分な知識をもっておくこと

そして、聞くところでは、その後、文通や相互の実践の交流へ発展しているとのこと。センターの研修が、その後の、このような県内の教育実践の交流の契機となっていくことはたいへん喜ばしいことだと考えます。

56年度の研修でも、センター研修がこのような面でも役立てばと願っています。

「夜のつどい」も、このような受講者相互の人間関係の深化に、少なからず役立つことが多いと考えています。

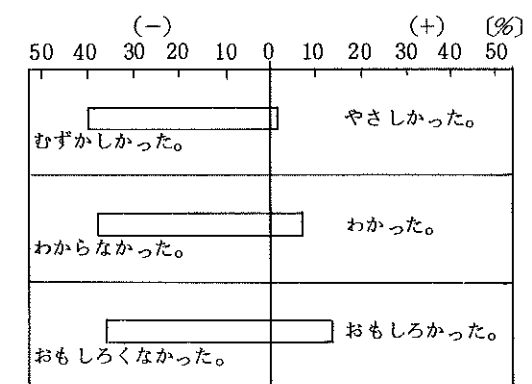
が必要である。また、具体的には、

- (1)授業の目標が明確化されていること。
(2)子どもが主体になる学習であること。
(3)形成的評価が取り入れられていること。
(4)KR情報をよく与えること。
等が「よい授業」を支える大切な条件となる。教育工学はこれら「よい授業」に関与する要因を有機的に結合(システム化)することによって学習効果を最大ならしめようとするものである。

授業に関する意識調査 (1)

7科目 1・2・3年 300名

今日、受けた授業の感じはどうでしたか?



授業に関する意識調査 (2)

2科目 2年 80名

今日、受けた授業での感じはどうでしたか？

(%)

(-)50 40 30 20 10 0 10 20 30 40 50(+)

OHPはよく なかった。	OHPを使ってよかった。
アナライザーは よくなかった。	アナライザーはよかった。
プリントはよく なかった。	プリントはよかった。
教室実験はよく なかった。	教室実験はよかった。

授業に関する意識調査 (3)

調査人員 1・2・3年 188名

どのような指導が“やる気”を起させましたか？

(%)

0 20 30 40 50 60

興味深い授業	
ていねいな授業	
わかるまで指導を受けた授業	
自信をつけてもらった授業	
他の者と競争させられた授業	

3. 教育工学の日常化

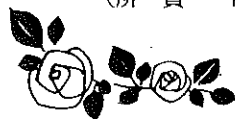
ギリシヤ神話にこんな話がある。ピグマリオンというキプロスの王様が彫刻の像に恋をした。そしてこの像が生きものであれば、と強い期待をもった。その想いと期待があまりにも一途であったのだろう。像はついに生きものに変身したという。これがピグマリオン効果といわれるものである。このピグマリオン効果は教育の場でも働くという事例が報告されている。すなわち教師が子ども一人ひとりの可能性に期待をもち信じれば、その子はその可能性を開き、期待にこたえてくれるというのである。教師はできることを、できるところから地道に積み重ねていきたいものである。このような心がけに基づ

く実践がよい授業を創りだし、目標達成も可能にしてくれるものである。

よい授業が実践(教育工学の日常化)されるためのチェックポイントとして次のようなことがあげられる。

- (1)生徒の実状をいつも把握しているか。  
・子どもが到達状況を明確にイメージ化できるように具体的であるか。
- (2)学習目標を具体的に明確化しているか。  
・子どもが到達状況を明確にイメージ化できるように具体的であるか。
- (3)教材研究を深め、教材の構造や教材を生かす箇所などについて設計をもっているか。
- (4)教材の提示を効果的にしているか。  
・黒板、OHP、VTR、スライド、映画、テープレコーダ、掛図等の特性を生かして効果的な提示を心がけているか。  
・日ごろ、教材の保管(機材器具は、ほこりをかぶっていないか、整備はされているか)に万全をつくしているか。
- (5)子どもが主体になる学習を展開しているか。  
・教師がしゃべりすぎず、子どもが中心となって学習を進めていくような問題解決学習、作業、演習をしているか。
- (6)子ども一人ひとりについてKR情報を十分与えているか。  
・「正答です」「誤答です」などの知的KR、「よくがんばったね」、「ここはこうしたら?」といった激励や助言等の情的KRを十分与え、意欲を喚起したり、教師、子ども間の望ましい関係を作るよう努力しているか。
- (7)形成的評価を的確に行い、指導の修正に生かしているか。  
・授業中、発問、ノート、机間巡視、小テスト、アナライザー等により、学習の反応状況を十分収集して、その場、その場で指導の改善に役だっているか。また、授業終了後等に授業の反省をして、次の授業に生かすよう反省材料にしているか。

(所員 前川幸治)



# 小学校道徳の時間の指導の工夫・着眼点

## —道徳的実践力の育成をめざして—

1. 道徳の時間の指導をより充実させるための基盤として
  - (1) 全体計画の改善をはかる。  
道徳教育の目標が、「道徳性を養うこと」であり、「道徳的実践力を育成する」ことであるならば、全体計画もその目標にあわせて再検討し、改善することが必要であろう。  
そこで、改善の柱を次のように考えてみた。  
① 道徳の時間以外の学校教育活動の中で、道徳的実践指導計画をたてる。  
② 学校・地域社会・家庭の相互関連をはかる。  
③ 道徳的実践力の育成と道徳的実践の相互交流・深化・統合をはかる。
  - (2) 年間指導計画の改善をはかる。  
指導内容項目が32項目から28項目に統合されたことでもあり(小学校の場合)これを機として、従来の年間指導の再検討と改善をはかることが大切である。  
それで、改善のだいじな着眼点として考えられることは次のことである。  
① 全体計画、学年段階相互、児童の実態及び中学校との関連を考慮する。  
② 従来の年間指導計画について、ねらいのたて方、展開(授業のながし方)、資料について、それぞれ適否を検討する。
  - (3) 学級経営の改善をはかる。  
学級経営がうまくいくかどうかは、教育の効果ときわめて深い関連があり、道徳の時間の充実ともつながりが深い。すなわち、道徳の時間の話し合いが、何でも言える雰囲気の中で、すすめられることが大事であろう。  
何でもいえる学級の雰囲気をつくるため

- には、
- ① 学級自体が、創造的集団であること。
  - ② 学級内に、許容の雰囲気育てること。
  - ③ 児童と共にあゆむ教師であること。
- などが、大切であろう。
2. 道徳の時間の指導をより充実させるために道徳的実践力を育成することが、道徳の時間の目標であるが、道徳の授業では、次の3つの力が育つと考えられる。すなわち、①感じとる力。②ふりかえる力。③しようとする力。  
そこで、授業を充実させるポイントとして、考えられることは、次のようなことと考える。  
(1) 「道徳的実践力を育成する」の意味をよく認識しておく。  
道徳的判断力と道徳的心情が相互に依存したり、関連をもちながら道徳的態度を支えていくわけであり、このことが道徳的実践力を育成することになることを、はっきり認識しておくことが大切である。  
(2) 「道徳的実践の指導」の意味をよく認識しておく。  
基本的行動様式が道徳性の発達の基盤をなすと考えられるし、道徳の時間でも取り扱わなければならないけれども、むしろ、これを幼児時代からの「しつけ」として受けとめ、学校における道徳教育では、道徳的実践の指導における「習慣形成」の問題としてとらえることが大切である。  
(3) 主資料の取り扱いに時間をかける。  
道徳の授業を充実させるためには、導入の段階での安易な経験談の発表を避けたりするのも一方法であろうし、もっと主資料の取り扱いに時間をかけて、道徳的実践力を育成する努力をすることが大切ではないだろうか。

つまり、資料を重視し、時間をじゅうぶんかけることによって、主人公や児童の内面を語らせることになると思う。教師は、児童が主人公の気持ちや、行為、考え方を推測したり、自分の考えをそれにのせて語ることができるよう、よく配慮し努力することが大事ではないだろうか。

(4) 資料の種類と資料の活用類型とは違うことを明確に認識する。

資料は、その内容によって、①実践教材②葛藤教材③知見教材④感動教材に分けられるけれども、教師の指導意図によって、同じ資料でも①実践への方向性をねらう範例資料として活用するタイプ。②感動の意識化、自覚化をねらう感動資料として活用するタイプ。③道徳的感じ方、考え方の深化をねらう批判資料として活用するタイプ。④現

在の価値感の自覚をねらう共感資料として活用するタイプが考えられる。従って資料の種類と活用類型は同一でないことを認識して指導することが必要である。

(5) 発問をよく考え、価値の一般化をていねいにする。

授業をする際、中心発問や基本となる発問をよく考え、発問の系統性や発展性を考慮することが大切である。発問では問題を焦点化し、児童の胸のうちに問いかけなければ答えられない深みのある発問を中心発問として考え、資料の中の主人公の行動の裏にある心の動きを、自分のものとしてとらえさせ、自己の生活とからめて考えるよう工夫すべきであろう。

(所員 吉木 靖 範)

## 学級会活動の指導の工夫・着眼点

### —「係活動」の考え方とすすめ方—

#### 1. はじめに

学校会活動のうち「話し合い」や「学級集会」は最近どの学級でもめだって活発になってきたようです。それに対して「係活動」についてはまだ本来的な理解と実践活動が十分でないといわれています。そこで、今回は「係活動」の考え方とすすめ方を考えてみました。

#### 2. 係活動の必要条件

学級担任の先生方にとって、新しい学年が始まり、担任する学級が決まると学級の組織づくりが最初の大事な仕事です。それは、先生方がめざされる1年間の学級経営目標の具現化にうまくからみ合うことができるかどうか重要なカギとなるからです。

同時に、児童・生徒にとっても学級集団の中で自己を生かす適切な場を確保できるかどうか大事な機会となります。「活動」とおして仲間と生活できる楽しさ、仕事をなしとげたとき

のさわやかさを一人ひとりの児童・生徒が味わうことが、係活動の本来的な意義であることはいうまでもないことでしょう。

このような事情をふまえて、学級の「係」発生の必要条件を簡条的にあげてみます。

- (1) 児童・生徒がやりたい係である(希望性)。
- (2) 学級にぜひ必要であり、学級全員の生活の維持、向上に寄与する係である(奉仕性)。
- (3) 集団活動を通して児童生徒の協力、信頼関係の育成が図られる係である(連帯性)。
- (4) 同じ仕事を中心にまとまった係である。

(目的性)

- (5) 日常的に継続活動ができ、一回性でない仕事をもっている係である(累積性)。
- (6) 学級で必要がなくなったとき、または仕事が完全に終了したときは新しい発展的に改廃のできる係である(柔軟性)。
- (7) 仕事の内容に創意工夫の場があり、知恵を出し合う係である(自治性・自発性)。

以上のことに若干のことがらを付記しますと、はじめに、児童・生徒がどの係に所属するかその希望を大切にしていきたいのです。希望するからこそ仕事への意欲がわき、集団の中で協力する態度や信頼関係が成立します。したがって、各係の人数でバランスのとれないことが出てくるかも知れませんが、そのときはその係をさらにいくつかの小グループに分けてでも希望どおりの係活動をさせてみたいものです。

次に、学級会活動の係活動は全校児童会・生徒会の下部組織ではありませんから、必ずしも児童会・生徒会の委員会活動と同一の係をつくる必要はありません。児童会・生徒会との関連はある程度考慮すべきですが、係活動がすべて委員会活動に従属する位置づけは学級会活動の独自性からいって本来的ではありません。もし代表委員会や委員会活動の話し合いに学級代表を送らなければならないときは、仕事の内容のちかい係から出席すればよいのです。

#### 3. 係活動の内容と方法

係活動で大切なことは、必ず集団の力を出し合わなければ解決できない仕事を選ぶことが大切です。いいかえれば集団の力を出し合わないでも各人の心がけ次第で解決できる内容は係活動にはなじまないということです。

例えば「学習態度をよくしよう」「遅刻をしない」など、学習係や生活係から努力目標としてのスローガンが出されることがあります。これらは集団活動としてとりくむべき内容ではなく、個人の意識の問題です。ところが、現実には、班別の点検表などに○×が記入され、各係は○×をつけることが係活動のすべてのような

錯誤をしていることさえあるのです。

そこで、係活動の内容と方法について、チェックポイントを考えてみました。

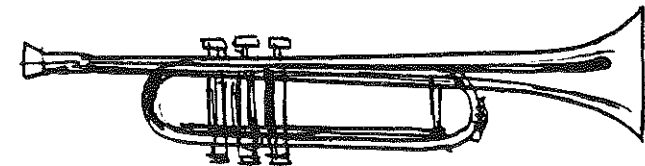
- (1) 各係がそれぞれに工夫して特色を出す活動を目指し、一人が一役をもち協力的、協同的に仕事をすすめているか。
- (2) 生活規律的スローガンを各係がそれぞれに学級全員に押しつけ、監視点検するのではなく、係として学級全員に奉仕できる仕事を具体的に持っているか。
- (3) 各係の活動内容や成果が学級内で定期的に公開され、学級全員に支援されたり、注文をつけられたりしながらよりよい活動へ発展しようとする機会が設定されているか。
- (4) 学年の発達段階に合致した活動で、教育的価値を持っている仕事であるか。

以上、やや羅列的になりましたが、係活動の基本的評価の目安としていただきたいと思います。

#### 4. おわりに

児童の基本的行動様式の指導(しつけ)は、係活動を含む児童・生徒活動を手段にすれば、特別活動本来のねらいからはずれることとなります。つまり、係活動は集団活動をとおして児童の最も自由で最も自主的活動ができる場として開放すべきでありましょう。そのことが冒頭に述べた学級経営目標に児童・生徒自身が立ち向かう、具現の場になりますし、さらに、児童生徒の内面的要求を満たすことにもなると思います。

(所員 小嶋 一郎)



昭和55年度

研究紀要の概要

—チーム研究の重視—

昭和54年度の研究紀要は、小学校・中学校・高等学校という三種の学校ごとにまとめて、発刊いたしました。また、供覧、使用の都合などを考えて、分冊（合冊という呼名に対して）も作製しました。

昭和55年度は、もちろん分冊も作りますが、校種ごとにわけないで、全部を一冊にまとめることにしました。教育センターの研究のあり方として、校種に関係なく、教科あるいは領域でチームを組んだ研究をしようという方向で進めているからです。また、ページ数も全体で300ページでおちつくことになったからです。なお、従来は、白表紙でしたが、教育センターの地理的環境や県木の楠などのことを考えて表紙に色をつけて発刊することにいたしました。

学習意欲を高める要因の分析

児童・生徒の学習意欲にかかわる意識について実態をとらえ、①授業における教師の指導態度、指導法と児童・生徒の意欲との関連、②教科（小国・中国・中社・中英）の本質や特性と意欲との関連、特に指導法に焦点をあてて、授業改善への考察を加えた。

個の学習状態に応じた授業システムの開発

認知スタイルテストによって、個人差や学級の特徴を把握できるという仮説をたて、県内小中学校各1学級について実験的に認知スタイルテストを実施して分析し考察した。その結果、仮説の通り、認知スタイルによる個人差や学級の特徴を把握することができた。

ビデオ教材の制作とその活用に関する研究

児童の認知力や興味・関心を重視したビデオ教材を制作すれば、確かな学力を習得させることができる。という仮説をたて、同一のねらい

の教材を2種類制作した。その教材を視聴させたあと、実験授業やアンケート調査を実施した結果、ビデオ教材の作り方やその活用法をつかむことができた。

へき地少人数学級（複式）における論理的客観的な考え方を促す指導の実践的研究

複式指導が児童の問題意識を分断しがちであることをとらえ、学習課題とそれに対する活動及び思考の様子を県内2学級を抽出し、授業分析によって探索した。その結果、直観的把握の容易な学習課題は、長時間の検証活動を可能にし、その過程で論理性を追求する傾向がみられ新たに待機的指導が必要になった。

「ゆとりあるしかも充実した教育」に関する研究

「創意の時間」を楽しく有効に過ごせば「ゆとりと充実」の効果が学校教育活動全体に波及するであろうという仮説をたて、当センターの共同研究校の教師、児童に「創意の時間」の充足度の意識調査を行った。その結果、「創意の時間」の充足度の高い者ほど、学校教育活動への波及効果は大きいという検証がなされた。

世界地理先習にともなう地理的分野の内容構成とその指導法の研究 — 学習意欲を高めるための作業的な学習のあり方 —

前年度からの継続研究で、本年度は社会科（地理的分野）学習指導法の研究に力点を置き、実態調査や実験授業をとおして、①社会科における学習意欲に関する意識の実態把握と要因分析、②地理的分野における作業的な学習のあり方について考察を加えた。

児童・生徒の問題行動の要因分析及び指導法の実践研究 — 学校現場の対応を中心として — 研究主題について①B=f(P・E)から心理療法が有効②環境要因中、重要な要因は家族力動であり、両親カウンセリングが有効③学校生活や友人関係の中で承認欲求、所属欲求の不満、歪みの改善が有効、など15事例について2か年にわたって研究し確かめられた。

生徒に意欲を持たせる英語の授業の進め方 — 高校入門期におけるつまずきの分析と授業改造 — 佐賀県の場合、高校1年で英語嫌いになる率がいちばん高いという事実から、その理由を探った。その結果、中学校での授業の進め方と極端に違うこと、生徒が意欲をもたずに授業に臨

んでいることが判明し、高校の入門期において、生徒に意欲を起こさせ、しかも自主的に生徒が活動する授業の型を、中学校との「つなぎ」を考慮して探り、高校の授業改造を試みた。

教育基礎調査 — 「豊かな人間性をめざす『教育課題』の意識に関する調査とその考察」 教育課程審議会が豊かな人間性をめざすうえでの教育課題として指摘した7つの課題を中心に、小・中・高校の児童・生徒、教師及び保護者の意識について、問題場面法、多肢選択法及びSD法によって調査し、三者間の関連の様子やズレについて考察を加え、本県教育の課題を明らかにした。

長期研修体験の感想

(昭55年10月1日～昭56年3月31日)

各教科 6人  
教育評価 2人  
教育相談 3人

現場にいるときと違って、自分の仕事や職場を客観的にみることができ、驚いたり喜んだりしました。また、夢にも思わなかった貴重な体験をさせてもらったことはうれしい限りでした。時間をじっくりかけての指導案の勉強もでき、実験授業も新鮮な緊張の中でさせていただき親切な指導がととても有意義でした。

小・中・高の先生方と一緒に研修ができたことは、得がたい貴重な経験でした。

また、教科外の勉強の機会に恵まれたことは識見の向上ができたと考えています。特に公開講座等には、毎度、二度と会えないだろう講師に接することができて、人間的に穏かになっていくのを感じるくらいでした。

所員の先生方とも親しく談笑できるようになったし、5時に退所というのも、現場では考えられないことです。また、昼休みも生徒はおら

ず、ゆっくりテニスができるということは思いもよらぬことでした。

やや困ったこととしては、図書館や大学と離れすぎて、研究のためには不自由な面があり、センターの参考書だけではやや不足きみで、すこし苦勞をしました。室が、音を立てる道具を使う場合には、ちょっと不向きなようです。

忘れられないこととして、オーストラリアからの視察団が見えたとき

事前一週間ぐらい、忙しい勉強をしました。とてもよい思い出になりました。

長期研修生ということで、教育センターで、指導ルートにきちっとのせられて鍛錬されるのかと思っていましたが、やりたいことを自由にやらせてもらい、かけがえのない研修ができてほんとうによかったと思います。

教科  
— 自分を客観的にみる6カ月 —  
・福田真智子 ・岡陽一郎 ・山口 公大 (中)  
・中島タカ子 ・宮地武彦 ・城島 則明 (高)

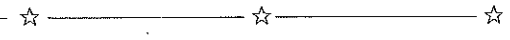
自然環境に恵まれた教育センターでの研修期間も残りすくなくなりました。顧みると、入所とともに、数多くの専門的な講座に出席したり、所員の方々のご指導やお話をおきするたびに、現在の教育の課題、奥の深さ、重要さを痛感してきました。

現場では、中堅教員とよばれながらも多忙にまぎれ、深く研修することもなく、ただ漫然と日々を過ぎてきたことを深く反省するとともに現場をはなれ、静かに自分を見つめ直し、研修の機会を与えていただいたことを、とてもありがたく感謝しております。  
・自分の好きなだけ、自由に専門書を読むことができた。

・数多くの講座を受講し、幅広く研修することができた。  
・教育学、評価の領域の研究は、追求すればするほど内容の深さ、広さを感じ「一人ひとりを大切に、わかる授業」の実践のむずかしさを味わった。

・整備された調整室、機器室での教材作製の研修も、数多くの操作を経て体で覚えること、チームワークの大切さを学んだ。  
・文献研究の裏づけとして、実験授業、紀要執筆など、苦労はあるが、よい経験だと思っている。

**教育評価**  
— 専門書がよめる、幅広い研修 —  
福山仁人 福岡勝仁(小)



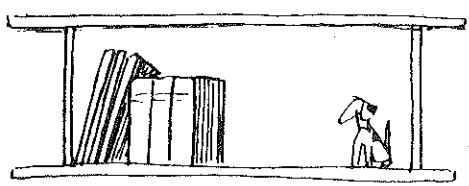
わたくしども3名は、長期研修生として、指導相談係で、「教育相談」の研修を続けて6か月になります。わたくしどもは、それぞれの現場(小・中・高)で、生活指導にかかわって、問題行動を持つ児童・生徒と接してまいりました。そして、接していく過程で、

**教育相談**  
— ことばの重味を実感 —  
東津弘人(小) 川崎紀久雄(中)  
杉森 裕(高)

母親にすら甘えさせてもらえなかったさびしさと、せつせつと訴える目、自ら傷つけた手首の傷あともいたいたしく、自殺未遂を語る生徒、カウンセラーから性病の話をしきときの不純異性交遊生徒のキラキラ光る目、  
— 「ひとりひとりを大切にする教育」のことばの重味をずっしりと実感させられました。いまにして思うことは、もっと早く、教育

「児童・生徒をとりまく環境に、問題行動をおこす原因があるのではないか」と、漠然とした疑問をだいていました。  
昨年10月から、教育センターで、「教育相談の窓」から、問題行動をもつ児童・生徒を観たときの驚きはなんと大きかったことか。  
— 教壇の上からみる学級集団の中の一人の子どもと、いま目前に、カウンセラーと一対一で相対しているひとりの子どものちがいは、

相談にたずさわっておればよかった、という悔恨の念。非行にはしたあの子は、さびしかったらうな、もっと話を聞いてやればよかったなあ — などと思いだされ、くやまれるばかりです。  
3月には、研修が一応おわるわけですが、短く感じられた6か月間でした。今は、自分の内に、児童・生徒をみる目がひらきつつあることに喜びを感じています。



I. 昭和55年度の「教育実践・研究記録」の応募は、下記のとおりでした。  
小学校……………6編  
中学校……………5編  
高等学校……………2編  
(含、特殊学校)  
計……………13編  
※この13編を部門別にみると、次のように大別できました。  
個人研究……………11編  
グループ研究……………1編  
学校研究……………1編  
また、この13編を教科領域等別にみると、つぎのとおりでした。  
小学校算数……………1編  
小学校理科……………1編  
小学校音楽……………1編  
小学校図工……………1編  
中学校英語……………1編  
中学校数学……………1編  
高等学校社会……………1編  
小学校図書館……………1編  
小学校特殊教育……………1編  
中学校ゆとり……………1編  
中学校生徒指導……………2編  
特殊学校特殊教育……………1編

慎重に審査された結果、次の5編が入選と決定しました。なお、この入選論文は冊子として公表するとともに、5月中旬に計画している研究発表会でも紹介される予定です。

**昭和55年度  
教育実践  
研究記録の紹介**

- <入選論文> (順不同)
- 明るい歌声を通して音楽する心を育てる指導  
— 4年生を中心として —  
佐賀市立新栄小学校  
山口和代先生
  - 豊かな造形的創造活動をめざす鑑賞活動  
佐賀市立本庄小学校  
辻 宏達先生
  - Mother Goose's  
— Melodyと中学英語  
佐賀市立城東中学校  
福田 祐子先生
  - 新設高校における郷土地理の指導実践記録  
佐賀県立東松浦高等学校  
平田 順二先生
  - ゆさぶりへの試み — 在宅訪問教育 —  
佐賀県立金立養護学校  
広橋 信子先生
- 最後になりましたが、ご応募くださいました多くの先生がたに厚くお礼申し上げますと共に、今後とも、よろしく願いたします。

II. 今年度の審査委員会(委員長、紅 茂)は、1月22日に開かれ、10人の委員の方々

**子どもに読ませたい詩**  
菜畑  
野長瀬 正夫

少年は、  
道でおよめさんの行列に会った。  
およめさんは十九だと人がうわさしている。  
少年は、  
ふと、姉のことを考えた。  
姉はことし二十五。  
少年は、  
石ころをけりながら家に帰った。  
姉はうらの菜畑で、  
菜の葉についた虫をとっていた。  
「ねえさん」  
姉はならびのよい歯をのぞかせて、  
にこっとわらった。  
「なあに。……………どうしたの」  
少年は、  
べつに言うことがなかったの、  
ぼくも虫をとってやろうと、  
姉とならんで畑にしゃがんだ。  
きょうは、  
紀州の山がよく見える。



“新刊図書”ではありません。  
昨年度と今年度教育センター購  
入のもので、4,000円以上の  
書籍の中からえらんで右に掲げ  
ました。

貸し出すこともできますので、  
どうぞご利用ください。

お 礼

武雄市史(上・中・下)  
伊万里市史(正編・続編)  
相知町史(下巻・附巻)

また、上記の史誌をご惠贈い  
ただきました。ほんとにありが  
とうございました。

子どもによませたい詩”  
うまよ、  
そんな大きなりをして、  
子どものように  
からだまであらって  
もらっているのか、  
あ、はたるだ。  
山村 暮鳥

書 名	著 者 名	出 版 社
ロールシャッハ テスト入門	門堂 哲雄 矢吹 省司	日本文化科学社
教育課程の目標管理	伊 藤 和 衛	明 治 図 書
行 動 療 法	内 山 喜久雄	文 光 堂
創造的生徒指導	間 宮 武	金 子 書 房
問題解決の心理学	辰 野 千 寿	“
現代教育評価講座	7 卷	第 一 法 規
実践校長学入門	5 卷	明 治 図 書
教育統計法詳説	3 卷	図 書 文 化
現代学校教育全集	25 卷	ぎょうせい
小学校教育実践講座	16 卷	“
高校ホームルーム 指導事例集	西村三郎 他編	第 一 法 規
クラブ活動指導事例集	沢田慶輔 他編	第 一 法 規
新社会科指導事例集	朝 倉 隆太郎	明 治 図 書
言語教育分析	マ ツ ケ イ	大 修 館
青少年指導事例集	佐治守夫 監修	東 京 法 令
佐賀藩の制度と財政	城 島 正 祥	文 献 出 版
社会科教育史資料	上 田 薫 他 4 冊	東 京 法 令
日本教育資料シリーズ	梅 根 悟 他 10 卷	三 省 堂
日本教育論争史録	久 木 幸 男 他編 4 卷	第 一 法 規
教育障害の治療と指導	内 山 喜久雄 他編	岩村学術出版
情緒障害の治療と指導	“	岩村学術出版
自作視聴教材の手びき 1~3	有 光 成 徳	第 一 法 規